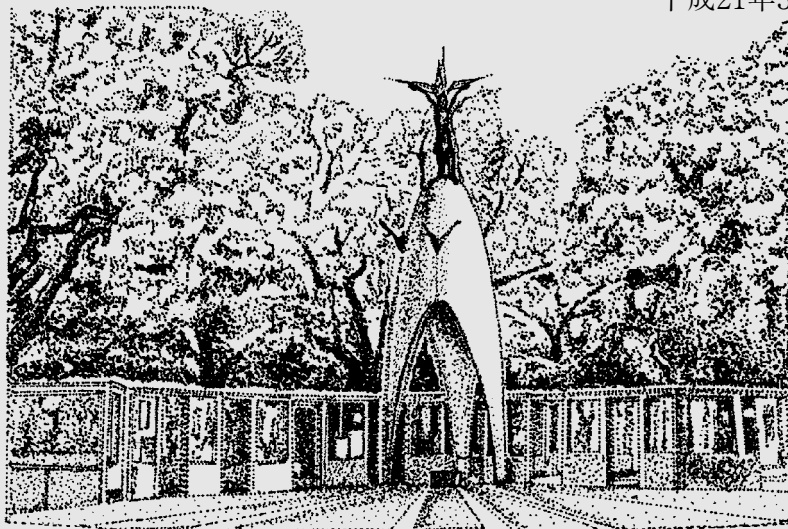


所報



巻頭言

教師も子どもも、ともに学び続ける共同体に

岡山大学大学院教育学研究科 教授 佐藤 暁



教育にかかわることは、学校と教師に任せたほうが
いい。

とある地方トップが教育の方法にまで注文をつけて
関係者を混乱させているが、現場のどこを見てそう
言っているのか、論拠がまったく見当たらない。仮に
聴くに価する意見が述べられることがあったとして
も、実際に授業をし子どもたちを育てるのは、学校に
勤める教師である。この仕事は、教師に任せてもら
うしかないのだ。

ここまで言い切るのには、現場がそれだけの力をも
っているからである。外野からあれこれ指摘されなく
ても、自分たちの至らなさがいちばんよく分かっている
のは当の教師だし、多くの教師はそこを何とかしたい
と思っている。ただしそれは、教師が力を発揮する、
ストレートに言うなら、やる気の出る状況に置かれて
いればの話である。

わざわざこんな条件を示したのは、現実がそうな
っていないからである。だが、どうしたら教師はその気
になれるのだろうか。

有力な手だての一つは、教師同士が、授業や子ども
の話をする場を確保することである。すでに私は、市
内の学校に定期的におじゃまし、校内の授業公開に参
加させてもらっている。授業のなかでの子どもの「困

り感」と「学びと育ち」を見届けながら、それに対応
した授業をどうデザインしていったらいいか、全員で
語り合うのである。「子どもを語る授業公開」と呼ん
でいる。

ところで、この時代、授業づくりのメインテーマは、
やはり子ども同士の学び合いである。膨大な数の授業
を見てきて痛感するのは、子どもをつなぐ授業、子ど
もからすれば「つながる先」のある授業の大切さである。
「つながる先」とは、もちろんクラスの仲間である。
いじめ、不登校、特別支援教育、そして学力の問題、
いずれも、「つながる先」を失った子どもたちの問題
である。

学び合う授業を創造するために教師が学ばなくては
ならないことは、まだまだたくさんある。着手する
ときには多少の頑張りが必要だが、やってみると思いの
ほか充実感が得られるのが「子どもを語る授業公開」
である。教師自身、学ぶ喜びが感じられると、いつの
間にかそれがやる気と元気を生んでいる。

教師が学び始めると、どういうわけか子どもたちの
学びも活性化する。子どもは、学んでいる人からしか
学べないのかもしれない。教師も子どもも、ともに学
び続ける共同体に学校がなれたらいい。

も	○巻頭言	……………P.1
く	○研修講座だより 3	……………P.2
じ	○シリーズ 校内授業研究を進める 3	……………P.3

○教育特別講座「日本の授業研究と教師力」	……………P.4
○授業づくり支援センター・教育実践相談等の活用状況について	……………P.5
○教育センターひろば	……………P.6

研修講座だより 3

2月までに実施した研修講座(一部)の概要を紹介します。

ひろしま理解講座

講座の概要

本年度の「ひろしま理解講座」は、11月25日に爆心地復元映像制作委員会代表で記録映画監督の田邊雅章先生をお招きして実施しました。原爆投下前の爆心地に、どんな町があり、どんな家があり、どんな人々がどんな暮らしをしていたのか。コンピュータグラフィックスで再現されたDVD『爆心地～ヒロシマの記録～』の上映の後でうかがったお話から、城下町として栄えた「ひろしま」の伝統や文化を支えた町並みや人々が全て消えてしまった歴史の重さと、原爆投下以前の「ひろしま」を知ることから、広島を愛する心をはぐくむことの大切さを学びました。

《受講者の声》

- 爆心地に何があったかを知らない子どもたちは沢山いると思う。広島に暮らす一人として、どんな町だったか、どんな人が住んでいたのかを、少しでも子どもたちに語りたい。そこに生き生きとした暮らしがあり、それが全て失われ、壊され、人生を壊したかを考えることができた。初めて聞く貴重な話ばかりだった。
- 原爆が、郷土の誇り・文化を消滅させてしまったことを改めて実感した。「原爆投下以前の広島暮らし・文化を子どもたちに伝えていく」という新しい視点を、これからの学習に取り入れたい。
- (お話を)平和の大切さや原爆のことだけでなく、広く広島を愛する心・故郷を大切に思い、人と文化を大切に作る心育てるための教育に生かしたいと思う。



お知らせ

講師の田邊先生から、当日上映したDVD『爆心地～ヒロシマの記録～』をご提供いただきました。教育センター内部Webページでストリーミング配信しておりますので、ぜひご覧ください。また、このDVDと著書『ぼくの家はここにあった 爆心地～ヒロシマの記録～』(朝日新聞出版)を、図書資料室で貸し出ししています。ご活用ください。

教師のためのソーシャルスキル演習講座

講座の概要

臨床心理士の勝部奈美先生を講師として、「子どもや保護者と信頼関係をつくるためのソーシャルスキルの理論と実践」について研修を行いました。

非常に多くの先生方に申込みをしていただき、午前と午後の2回に分けての実施となりました。

基本的な技法の他に、「信頼関係づくりが上手な先生に共通するソーシャルスキルの特徴」「雰囲気づくり」「話の伝え方」「話の聴き方(聴き上手になるためにクリアすべき七つの課題)」「ほめ方」等について演習を交えてお話をうかがいました。「雰囲気づくり」の演習では、グループ内で、順番に、教師役、父親役、母親役、観察者となってロールプレイングを行い、自己のこれまでの雰囲気づくりについて、振り返りました。

～聞き上手になるための七つのポイント～

- 1 たくさんの内容は、メモを取りながら聴く。
- 2 相手をさえぎって話をしない。
- 3 反論をするような場合には提案をつける。
- 4 分かりにくい話はポイントをたずねてみる。
- 5 結論は相手の話を最後まで聴いてから言う。
- 6 覚えておく事を相手にチェックしてもらう。
- 7 相手の人柄よりもその話の中身に注目する。



信頼関係とソーシャルスキル

学校の教育活動の基盤として、教師が子どもと、そして保護者と信頼関係を育てることが大切です。信頼関係が学校の中に育てば、お互いに緊張や不安がなくなり、子どもは安心することができます。私たちが、子どもや保護者と信頼関係を築くには、まず、相互に理解し合うことが必要です。言い換えると、お互いを「知る」(「思うこと」、「感じること」を言語化し、伝え合う)ことが必要となります。この信頼関係を育てるうえで、対人関係を良好にしていくための知識や技術(コツ)であるソーシャルスキルを活用することが効果的だと考えられています。

シリーズ 校内授業研究を進める 3

本シリーズ最終回は、教育センターが各学校に向向いて行っているサテライト研修の実際を紹介しながら、校内授業研究のこれからについて考えてみようと思います。

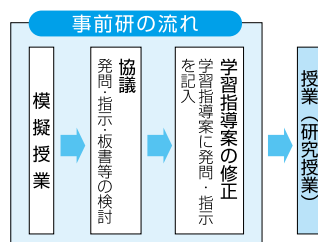
学習指導案検討の充実

提案された授業を見て、「教材研究が不十分」「学習指導案が十分に練られていない」と感じた経験はありませんか。教材研究が不十分な授業では、教師の働きかけがあいまいでねらいに迫ることができず、子ども同士のかかわりを生み出すことができたとしても、学びを生み出すことができません。協議会では、教師の働きかけに関する課題への指摘が増えたり、教材解釈に関する意見が増えたりしてしまい、子どもの学びの見取りに基づく深まった協議ができにくくなります。結果として、他の教師の見取りから、自分の見取りを見つめ直すという授業協議会の機能が薄れることとなります。

そこで、A小学校では、研究授業と事後の授業協議会だけでなく、事前の学習指導案検討もサテライト研修に含め、教育センターの指導主事を交えて、全員で教材研究をして授業に臨むというシステムで校内授業研究を進めていきました。

学習指導案の検討を全体研究会で

A小学校では、学習指導案の検討を事前に全体研究会で行う、いわゆる事前研に模擬授業を取り入れてみることにしました(右図)。このようにして進められた授業研究を先生方は次のように振り返っています。



実際に授業を行った先生の振り返り

- 一か月以上も教材研究をし続けて大変だったけど、模擬授業で授業のイメージをもつことができた。実際の授業は楽しかったし、自信もついた。子どもも生き生きできたし、自分も生き生きできた。

その他の先生方の振り返り

- これまで何気なく教材研究をしてきたが、発問一つ一つが大切だと分かった。
- 教材研究をして、授業におけることばの大切さを感じた。
- 子どもの立場から教材づくりができた。発問で子どもの考えをどう導き出すか工夫するようになった。

校長先生の振り返り

- 協議会で付箋紙を使うことで全員が発言できたのはもちろん、事前研を経て全員が授業について共通認識をもって臨むので、授業を見る視点が絞られ、協議会での発言もポイントが絞られていた。それまでの取り組み等を問う必要がなくなり、授業での子どもの様子を中心に協議できた。



計画を推進してきた研究主任は「とにかく日程調整を心がけた」と振り返っています。A小学校は小規模校ですが、その強みを最大限に生かした研究推進だったといえます。

授業研究と個の授業力の向上

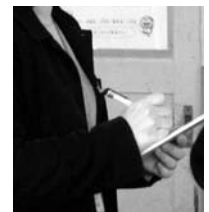
B小学校では、事前研での指導案検討はもちろん、年間6回の授業研究を行い、付箋紙の使い方を毎回改善してきました。今年度最後の授業研究では、本時案の学習活動と発問の欄だけを残し、あとは空白にして、そこに各自の付箋紙を貼付し全員に印刷して渡すという方法を取りました(右写真)。工夫を毎回行ったB小学校の研究主任は「今回の形が最もよかった。他の先生の意見が読みやすく、協議会での気付きをさらに書き込むことができる。」と振り返っています。



授業研究の目的は個々の教師の授業力向上です。授業や協議会で自分の授業を振り返るきっかけを見付けて、実際に授業改善を行っていくことで授業研究の真の目的が達成されます。サテライト研修では、授業協議会后、個々の先生方が「新たに分かったこと」「明日から取り組もうと思ったこと」を記述し、個の振り返りを行うようにしています。

そこで、全体での協議会をきっかけに、個の振り返りに基づいて実際に授業改善の手立てを講じたB小学校のC教諭を紹介します。

C教諭は授業協議会後の個の振り返りの中で、「机間指導の充実」を自分自身が取り組みたいこととして意識しました。そこで、座席表を使って児童の学習状況を見取り、自分の机間指導の状況を把握してみることにし、授業で3回の個別の見取りと1回のグループの見取りを行うなど、個に応じた支援を行いました。



C教諭の授業後の振り返りです。

「1回目の見取りでは3人見取っていなかった。また、自分が予想していた式は、ほとんどの児童が2番目に考えていた。」

机間指導の充実を図ったことで、授業中の子どもの思考の流れをよりの確に見取ることができました。この気付きが、次回の教材研究や指導案作成に生かされていくのです。

校長先生はC教諭を「日頃から子どもの様子をしっかりと見取りながら授業を進める先生」と評価しています。そんな先生であるにもかかわらずC教諭は、常に自分の授業に課題意識をもち、課題解決のために、具体的な手立てを講じ授業に取り組んでいます。このような授業改善の積み重ねが、授業力の向上をもたらしているのです。

自分の授業力の向上を目指して、研究授業をきっかけに自分の授業力を客観的に振り返り、授業改善に向けてできることから一つずつ具体的に取り組んでいきたいものです。このように、個々の授業力の向上につながる授業研究推進の在り方を探っていくことが、これから大切になってくるのではないかと思います。

教育特別講座「日本の授業研究と教師力」

教育センターでは、子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせるためには、教師の「授業力」のより一層の向上を図るための取り組みが不可欠であり、その「授業力」を向上させる場である「授業研究」を充実させることが必要であると考えています。

教育センターでは、これまでも研修講座や図書資料等の充実の他、『授業研究ハンドブック』、『授業研究ハンドブックⅡ』、『授業研究ハンドブックⅢ』の刊行や、各学校へのサテライト研修及び個々の教員に対しての教育実践相談等の支援を行ってきました。

さらに、これらの取り組みの一貫として、昨年12月に、臨時で「教育特別講座」を企画しました。全国の学校の授業研究にかかわっておられる国立教育政策研究所総括研究官の千々布敏弥先生をお迎えし、今、アメリカで教師の授業力の向上の手だてとして注目されている、日本の「授業研究」について講演していただきました。

講座では、豊富な調査データや全国各地の授業研究の事例をもとに、教師の力量向上につながる授業研究の方法や今後の課題などについて分かりやすくお話をいただきました。



受講者からは、「大変参考になった。」「元気をいただいた。」などの他に、次のような感想をいただきました。

<受講者のアンケートより>

- 授業研究の大切さを改めて感じた。今後、授業研究を、中核となる若い先生のための活発な討論や意見交換のできる場にしていきたい。
- 授業研究の必要性を感じた。自校でも取り組んでいきます。今後も第2弾、第3弾を期待しています。
- 今まで実践してきた研究授業、検討会がとても恥ずかしく思えた。ワークショップ形式をぜひ実践してみようと思う。
- 研究授業後の研究協議の進め方がすぐにも活用できるものであり、本校でも一層の充実を図りたい。このような研修は今後も数多く行っていただきたい。もっと多くの教師が聴けると有り難い。

教育センターではこれからも、教師の「授業力」向上を図る「授業研究」の在り方についての更なる研究、研修を進めるとともに、各学校の「授業研究」を支援していきます。

<講座概要>

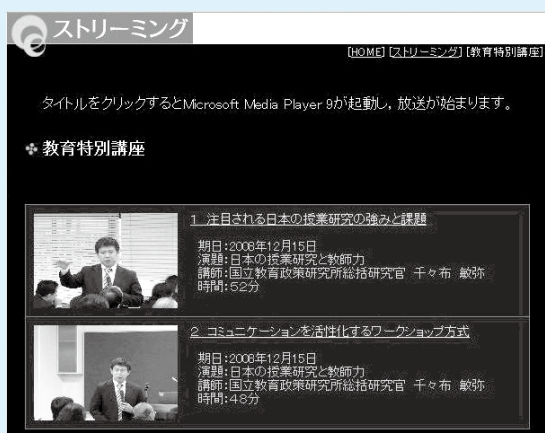
期 日 平成20年12月15日(月)
主 題 日本の授業研究と教師力
講 師 国立教育政策研究所
 総括研究官 千々布 敏弥

概 要

- 米国が注目する日本の授業研究
- 日本の授業研究の強み
- 授業研究の意義や課題
- コミュニケーションを活性化するワークショップ方式の授業研究会
- 授業研究を通じて
- 授業を深めるために

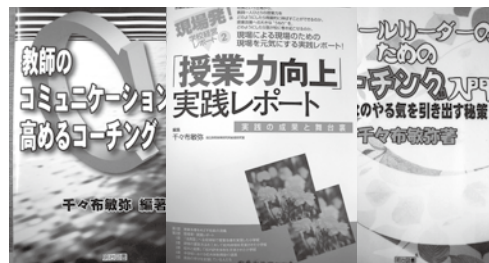
受講者

159名(幼稚園16名, 小学校97名, 中学校39名, 高等学校3名, 特別支援学校4名)



講座の様子は教育センター内部Webページから動画配信していますのでご活用ください。(音量が小さいためヘッドフォン等をご利用いただいた方が明瞭に聞き取れます。)
 教育センター内部Webページは <http://192.168.9.12/> からご覧いただけます。

図書資料室に所蔵している千々布先生の著書



- 『教師のコミュニケーション力を高めるコーチング』
千々布 敏弥 編著 明治図書 2008
- 『授業力向上』実践レポート 実践の成果と舞台裏』
千々布 敏弥 編集 教育開発研究所 2009
- 『スクールリーダーのためのコーチング入門
－ みんなのやる気を引き出す秘策 －』
千々布 敏弥 編著 明治図書 2007

授業づくり支援センター・教育実践相談等の活用状況について

教育センターでは、研修講座と合わせ、**授業づくり支援センター（図書資料室・授業づくり支援室・教科書センター・教科書資料室）**での教材研究・教材作成・学習指導案作成に必要な資料の提供や**教育実践相談**による情報提供を行っています。また、本年度は、先生方の自主研修支援として、**土曜開館・土曜セミナー**の試行も実施しました。

ここでは、先生方が実際にどのように授業づくり支援センターや教育実践相談等を活用されているかを紹介いたします。

授業づくり支援センター

本年度、授業づくり支援センターの利用者は2,030名でした（1月末現在）。

図書資料室

1月末までにのべ1,567名の方に図書資料室を利用いただきました。

貸出冊数が多いのは、学習指導法、教科指導、生徒指導、特別支援教育に関する書籍でした。



授業づくり支援室

1月末までにのべ463名の方の利用がありました。学習指導案（約1500点）や、実践に役立つ教育雑誌、新刊図書を閲覧し、教材研究等に活用しておられました。講座まで時間がある時や講座の帰りの利用が多かったようです。



土曜開館・土曜セミナー

本年度、土曜開館・土曜セミナーの利用者、参加者数は428名でした（1月末現在）。

土曜セミナー



「学習指導」「学級経営・生徒指導」「組織マネジメント」をテーマにセミナーを開催しました。参加された先生方には「すぐに学校で実践できる」と、大変好評でした。

教育実践相談

本年度、教育実践相談への依頼件数は814件でした（1月末現在）。**学校・学年における研究推進、学習指導案等の作成、教材研究**に関する以下のようなご相談やご要望に対して、教育センター職員が資料提供等を行い、各校（園）・先生方の自己研修をサポートしています。

相談内容

学校・学年における研究推進に係る相談・情報提供

校内研修会について、見直しを行いたい。授業研究・協議会の進め方の支援をしてほしい。

学習指導案の作成に係る相談・情報提供

校内研修会の指導案を学年で検討しているが、研究主題とのつながりがうまくいかないのが、助言をしてもらえないか。

初めて特別支援学級の担任になった。教育課程作成や学級経営等について教えてほしい。

教材研究に係る相談・情報提供

教材研究のために、教科書センターで数社の教科書を見たい。

運動会の表現や種目の資料を見せてほしい。

市内のお祭りに関する資料を紹介してほしい。

サポート内容

校内研修推進計画を基に、研究主任の先生とこれまでの協議会の進め方について検討し、付箋紙を使っでの協議会等を紹介しました。年間を通した支援も行っています。

教育センターで指導主事が指導案作成を支援しました。授業者だけでなく、研究主任や学年の先生も交えて検討することもあります。また、学習指導案の作成だけでなく、教材の紹介も行いました。

特別支援学校の学習指導要領解説や研修講座の資料を使い、相談内容について支援しました。

今回ご紹介したものの他にも、教育実践相談では、講師情報・コンピュータの操作等についての情報提供・相談も行っています。電話での相談も受けていますので、気軽にご利用ください。

先生方のニーズに応える教育センターを目指し努力しています。今後も教育センターをご活用ください。

教育センターひろば

研究員研究の紹介

●●●前期研究員●●●

○授業研究(校内研修)の推進に係る指導力の向上

- 若林 聖 (山本幼稚園)
自ら体を動かすことを楽しむ幼児をはぐくむ教師の援助の工夫
-発達段階を踏まえたリズム遊びの視点から-
- 吉岡 奈緒美 (牛田新町小学校)
運動の系統性を踏まえた体育科学学習指導
-器械・器具を使っでの運動(遊び)、器械運動領域を中心に-
- 岡田 智子 (三入小学校)
小学校第3学年算数科における「学習の振り返りを活性化するノート指導」に関する研究
- 山口 日出登 (五日市観音西小学校)
特別支援教育の視点からの授業改善
-一次的支援を取り入れた授業づくりを通して-
- 平坂 兆広 (江波中学校)
授業力・同僚性を高める校内研修づくり
-協同的な校内研修会を目指して-
- 長屋 吉輝 (五日市南中学校)
言語・数理解用科授業における単元開発と評価
- 臼井 教人 (広島商業高等学校)
教師の授業力向上を目指した校内研修の在り方について

○生徒指導の推進に係る指導力の向上

- 熊谷 謙次郎 (尾長小学校)
授業における予防的生徒指導の推進
-良質なコミュニケーションをはぐくむ協同学習の取り組みを通して-
- 西山 晴美 (美鈴が丘中学校)
教師のコミュニケーションスキルアップ
-生徒の良質な人間関係を育成するために-

前期(4~6月)9名,後期(10月~12月)11名の先生方が3か月間、「学校運営を支えるための資質能力の向上」「授業研究(校内研修)・生徒指導・特別支援教育の推進に係る指導力の向上」「教職員としての意識及び社会的向上」を目指した研修に取り組みました。

●●●後期研究員●●●

○授業研究(校内研修)の推進に係る指導力の向上

- 作間 和恵 (口田幼稚園)
幼児が体を動かすことを楽しみ、意欲をもって取り組むための教師の援助について -サーキット遊びを中心に-
- 瀬良 みつほ (長東西小学校)
小学校音楽科における「音楽づくり」を適切に位置付けた学習指導計画作成に関する研究
-[共通事項]を拠り所に学習内容を焦点化して-
- 吉田 嗣教 (伴南小学校)
問いつづけ、学び合うことを意識化する授業モデルの構築
- 檜山 枝美 (東原中学校)
中学校外国語(英語)科における、コミュニケーション活動を活性化させるための指導の工夫
-考えを伝えたいグループ学習の創造を目指して-
- 前平 知代 (安佐北高等学校)
古文学習の学びの意義を感得する授業の一試案
-論理的に分析し思考する力の育成の視点を取り入れて-

○生徒指導の推進に係る指導力の向上

- 河野 隆 (藤の木小学校)
子ども同士の良質な人間関係づくり
-学級集団形成の段階に応じたソーシャルスキル・トレーニング-
- 佐々木 英三 (庚午中学校)
良質な人間関係づくりのためのソーシャルスキル・トレーニング

○特別支援教育の推進に係る指導力の向上

- 竹内 美紀 (船越小学校)
特別な教育的支援を必要とする子どもたちが主体的に学習に参加できる学習集団の授業づくりに関する研究
-特別支援教育の視点を盛り込んだ授業づくりを通して-
- 川本 美佐子 (楽々園小学校)
特別支援教育の視点を活かした社会的スキルの形成のための教材の開発に関する研究 -将来の自立に視点をあてて-
- 川崎 茂 (安佐中学校)
安佐中学校の特別支援教育における教員としての気づきに関する研究
- 入江 和行 (口田中学校)
選択性緘黙の傾向を示す生徒のソーシャルスキルの向上に係る支援の工夫 -ソーシャルスキル・トレーニングを取り入れた指導を通して-

研究協力校・研究協力員

教育センターでは、指導主事が研究を進めるに当たり、次の学校や先生方に、データの収集や先進的な授業実践等の協力をお願いしています。

人材育成を促す校内研修の在り方に関する研究Ⅱ

研究協力校				
本川小学校	校	長	空間	浩道
中広中学校	校	長	河野	博史

ひろしま型カリキュラム導入に係る研究Ⅱ

研究協力校				
袋町小学校	校	長	宮原	眞治
		研究推進代表	森貞	小百合
千田小学校	校	長	檜山	秀子
		研究推進代表	新田	典生

教育用コンテンツの開発・作成に係る実践研究Ⅴ

研究協力員				
宮脇 隆博 (山本小)	吉川	洋介 (亀山南小)		
野上 真二 (日浦小)	大上	隆之 (湯来南小)		
加茂 優子 (福木中)	網藤	清次 (瀬野川中)		
小林 正平 (早稲田小)	小西	潤児 (牛田小)		
福永 徹 (宇品小)	伊藤	謙一 (三篠小)		
井藤 剛 (緑井小)	田原	佑壮 (彩が丘小)		

館内作品展示



広島市立幼稚園、小・中・高等学校の教職員の皆様の作品を各所に展示しています。年間を通して、豊かな文化の香りにあふれ、研修の合間に憩いの一時を醸し出していました。

展示にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

1年間皆様の実践・研究のお役に立てる情報をお届けすることに努めてまいりました。ご意見・ご感想、今後取り上げてほしい記事など教育センターへのご要望があればお聞かせください。

編集・発行 / 広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580

E-mail : center@edu.city.hiroshima.jp

外部Webページ :

http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/

内部Webページ :

http://192.168.9.12/

題字 ● 広島市立二葉中学校校長 山田 重則

表紙絵 ● 広島市立青崎小学校校長 楠田 賢二

広X6-2008-50(3)
再生紙を使用しています